

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	高 知 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	土佐山田町立片地小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	17	28	24	24	23	16	2	134	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、互いに認め合う子どもを育てる
 - 「確かな学力」の定着をめざして（算数科を中心に） -
 - 地域に学び、地域とともに歩む学校（総合的な学習を通して） -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・教科『算数科』（全学年）
 （子どもの理解度に差がでやすい教科であること、学校として、算数科に関する実績があるため）
- ・少人数指導の研究対象学年（3年・4年・5年・6年）
 （算数科において、3年・4年の定着度がそれ以降の理解度に大きく関わるとともに、5年・6年の学習内容の基礎・基本のさらなる徹底を図るための研究に取り組むため）

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、互いに認め合う子どもを育てる - 「確かな学力」の定着をめざして（算数科を中心に） - - 地域に学び、地域とともに歩む学校（総合的な学習を通して） -</p> <p>研究の見通し 研究の初年度である今年度は、「数と計算」領域の研究に重点を置くことにより、算数科における最も基礎的な技能である計算力を伸ばすことにより、他領域の学力アップも期待できる。 また、学力の基礎となる国語科の研究も合わせて行い、児童に「ものの見方・考え方」を身につけさせることによって、論理的思考が深まることも期待できる。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 年間計画の立案と重点教材の洗い出し（カリキュラムの確立） 算数科指導計画の組み直し 学力向上研究部が提案し、全教職員で検討決定 重点教材の洗い出し 学力向上研究部が重点教材の洗い出し、軽く扱うもの、あるいは教科書にないけれど取り扱わなければならないものを提案し、全教職員で検討決定 量と測定 数と計算 本年度はこの領域で研究 図形 数量関係 (2) 教員の指導力向上への取り組み 研究授業の充実 年3回の全校授業研究（他に低・中・高ブロックによる授業研究を含めて年6回の授業研究）および同一講師による継続的な校内研修</p>
--------	---

	<p>により、算数科の授業論の確立と、授業法の改善をめざす。 (講師 正木哲雄 高知工業高等学校定時制教諭) 研究を通して算数科における指導上の確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半具体物(タイル)を基礎とした考え方の明示 ・計算基本問題の徹底指導 ・応用問題については、「かけわり図」を使って解き方を教えていく。 <p>学力の基礎となる国語科と他の教科との関連についての研修 (講師 西郷竹彦 文芸研会長 文芸学者 元鹿児島短期大学教授)</p> <p>(3) 「数と計算」の領域で【型分けドリル】を作成する。 【計算型分け表】の作成(学力向上部が作成し、職員に提案、決定) 作成した【計算型分け表】をもとに、計算習熟プリントを作成 (二学期終了時点で4年生まで完成、5・6年については作成中) (来年度は、年度当初から活用の予定)</p> <p>(4) 重要単元形成プリントの作成 各学年の重要単元(今年度は、「数と計算」領域の中から)の形成 プリントを作成する。</p> <p>(5) 計算力確認テストの作成 各学年【計算型分け表】をもとに、すべての力が含まれた計算力確 認テストを作成する。(児童個々のつまずきの発見)</p> <p>(6) 少人数指導の効果的な授業形態の研究 少人数指導を3年生・4年生を中心に研究を進める。加配教員は3 年生・4年生の算数科の全時間に対応する。 年6回の授業研究のすべてに、少人数指導の授業を取り入れて、効 果的な授業形態の研究を進める。</p> <p>(7) 学力向上に関わる常時活動 計算力定着への取り組み 時間設定 水曜日の5時間目初めの10分間 名称 計算チャレンジタイム 教材 片地小学校作成中の計算型分けドリルを使用</p>
--	---

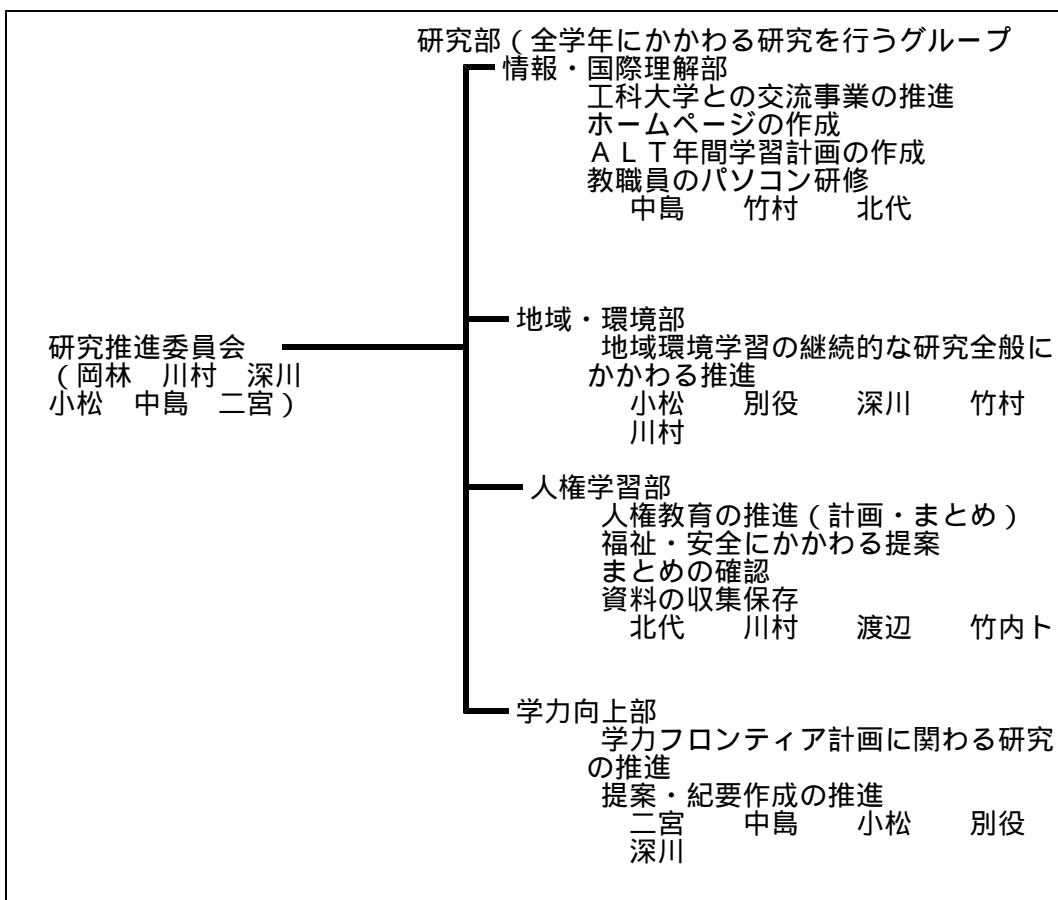
平成15年度	<p>テーマ 自ら学び、互いに認め合う子どもを育てる - 「確かな学力」の定着をめざして(算数科を中心に) - - 地域に学び、地域とともに歩む学校(総合的な学習を通して) -</p> <p>研究の見通し 前年度の研究「数と計算」領域をふまえ、研究の重点を「数と計算」領 域及び「量と測定」の領域に広げることによって、学力のさらなる深化発 展が期待できる。また、教員の指導力向上も期待できる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 年間計画の見直し、修正(カリキュラムの確立) 算数科指導計画の見直し、修正 前年度の実践をふまえ、よりよき指導計画に深化させる。 重点教材の見直し 平成15年度は、「量と測定」の領域及び「数と計算」領域で研究 「数と計算」平成14年度研究 「量と測定」平成15年度研究 「図形」 「数量関係」</p> <p>(2) 教員の指導力向上への取り組み 研究授業の充実 年3回の全校授業研究(他に低・中・高ブロックによる授業研究を 含めて年6回の授業研究)および同一講師による継続的な校内研修 により、6教科の授業論の確立と、授業法の改善をめざす。 (講師 横川日実子 高知県教育センター 指導主事) (講師 正木哲雄 元高知工業高校定時制教諭) 「量と測定」の領域における指導上の確認事項の決定</p> <p>(3) 計算型分けドリルの修正 作成した計算習熟プリントを使用しつつ、不備な点を修正する。</p> <p>(4) 重要単元形成プリントの作成</p>
--------	--

	<p>各学年の重要単元（今年度は、「量と測定」領域の中から）の形成プリントを作成する。</p> <p>(5) 少人数指導の効果的な授業形態の研究 少人数指導を3年生・4年生・5年生・6年生を中心に研究を進める。加配教員は3年生・4年生・5年生・6年生の算数科の全時間に対応する。 （中学年以降の基礎的・基本的な学力の定着のために学年を広げた。） 年6回の授業研究の内の3年生・4年生・5年生・6年生で、少人数指導の授業を取り入れて、多様な学習形態に挑戦し、効果的な授業形態の研究を進める。 （算数科の学習に関わっている学年において多様な学習形態を研究するため） 少人数指導の形態 ・一斉授業と加配教員と担任での少人数指導の組み合わせ ・グループ分けについては、単元ごとの理解の程度と本人の希望を組み合わせ、二つのグループに分ける。（単元あるいは、単元の進度によりグループの編成は変化する。）</p> <p>(6) 学力向上に関わる常時活動 計算力定着への取り組み 時間設定 水曜日の5時間目初めの10分間 名称 計算チャレンジタイム 教材 『まなびの島』（高知県教育委員会配布）を各学年ごとに整理し使用する。 （片地小学校作成の計算型分けドリルは、授業の中で使用する。個人の習熟度の診断が容易である。） 学習内容習熟への取り組み 時間設定 随時5分間ぐらいで 名称 毎日プリント学習 教材 各学年で工夫したもの</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 自ら学び、互いに認め合う子どもを育てる - 「確かな学力」の定着をめざして（算数科を中心に） - - 地域に学び、地域とともに歩む学校（総合的な学習を通して） -</p> <p>研究の見通し 前年度の研究「数と計算」領域「量と測定」の領域をふまえ、研究の重点を「図形」領域及び「数量関係」の領域に広げることによって、学力のさらなる深化発展が期待できる。また、教員の指導力向上も期待できる。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 年間計画の見直し、修正（カリキュラムの確立） 算数科指導計画の見直し、修正 前年度の実践をふまえ、よりよき指導計画に深化させる。 重点教材の見直し 平成16年度は、「図形」領域及び「数量関係」の領域での研究 「数と計算」平成14年度研究 「量と測定」平成15年度研究 「図形」 「数量関係」</p> <p>(2) 教員の指導力向上への取り組み 研究授業の充実 年三回の全校授業研究（他に低・中・高ブロックによる授業研究を含めて年六回の授業研究）および同一講師による継続的な校内研修により、算数科の授業論の確立と、授業法の改善をめざす。 （講師 正木哲雄 元高知工業高校定時制教諭） 「図形」領域及び「数量関係」の領域における指導上の確認事項の決定</p> <p>(3) 計算型分けドリルの修正 作成した計算習熟プリントを使用しつつ、不備な点を修正する。</p> <p>(4) 重要単元形成プリントの作成 各学年の重要単元（今年度は、「図形」領域と「数量関係」領域の中から）の形成プリントを作成する。</p>
--------	--

- (5) 少人数指導の効果的な授業形態の研究
 少人数指導を3年生・4年生・5年生・6年生を中心に研究を進める。加配教員は3年生・4年生・5年生・6年生の算数科の全時間に対応する。
 (中学年以降の基礎的・基本的な学力の定着のために学年を上げた。)
 年6回の授業研究の内の3年生・4年生・5年生・6年生で、少人数指導の授業を取り入れて、多様な学習形態に挑戦し、効果的な授業形態の研究を進める。
 (算数科の学習に関わっている学年において多様な学習形態を研究するため)
 少人数指導の形態
 ・一斉授業と加配教員と担任での少人数指導の組み合わせ
 ・グループ分けについては、単元ごとの理解の程度と本人の希望を組み合わせ、二つのグループに分ける。(単元あるいは、単元の進度によりグループの編成は変化する。)
- (6) 学力向上に関わる常時活動
 計算力定着への取り組み
 時間設定 水曜日の5時間目初めの10分間
 名称 計算チャレンジタイム
 教材 『まなびの島』(高知県教育委員会配布)を各学年ごとに整理し使用する。
 (片地小学校作成の計算型分けドリルは、授業の中で使用する。個人の習熟度の診断が容易である。)

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 成果 (教師)
- ・年間6回の授業研究及び同一講師による継続的な校内研修により、授業論の確立と授業方法の改善につながった。
 - ・教材、教具の改善
(各学年「量と測定」領域の形成プリントの作成)
 - ・1年から6年までの系統性を考慮した、カリキュラムの確立

観 点 別	平均点
表現 処理	93.3点
知識 理解	90点

(児童)

<第4学年> 『角の大きさ』の単元で講師を迎え、教材研究を行い全校での授業研究を行った後の、単元末の診断テストの結果は、次のような成果が得られた。
また、算数科に対する意識調査では、以前では、問題に対する自分の考えがもてるという児童は、八割ぐらいだった。それに対して、

研究を継続することにより、九割の児童が自己評価で、問題に対する考えがもてるようになったという結果が得られた。

<第5学年> 『三角形と平行四辺形の面積』の単元で
単元末に行った診断テストの得点者分布の割合

100点	35%
90点～99点まで	17%
80点～89点まで	30%
70点～79点まで	9%
70点以下	9%

- ・この結果をみてみると、80点以上を得点している児童が82%もの割合を占めることができた。
- ・少人数指導で、いろいろな学習形態を取ることににより、基礎的・基本的な学習内容が定着してきている。

2. 今後の課題

- 課題
- ・CRTからも明らかになったように、{図形}領域も今後研究をしていく必要がある。
 - ・少人数指導の効果的な授業形態の研究と実践
 - ・評価の研究に弱さがあるので今後の研究課題
 - ・学力問題が家庭学習や食育とも関係があることからPTAなどとも一層の連携を図っていく。

学力等把握のための学校としての取組

一学期 CRTの実施と結果の分析
学期ごとの漢字100問テストで漢字の定着を図るとともに追跡調査を行う
計算チャレンジタイムで個人カルテをもたせ、個人のつまづきを確認し、参考にし、補充学習を行っている。
児童の意識調査を行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第一回 P T A 総会
 日時 : 平成 1 5 年 4 月 1 8 日 (金)
 場所 : 片地小学校
 テーマ : 本年度の学力向上への取り組みについて
 対象 : 保護者
 第一回 片地の子どもを育てる会
 日時 : 平成 1 5 年 6 月 1 3 日 (金)
 場所 : 片地小学校図書室
 テーマ : 本年度の学力向上への取り組みについて
 対象 : 片地の子どもを育てる会推進委員
 土佐山田町教育委員会関係職員
 研究発表会 (中間発表会) を実施 (第二回片地の子どもを育てる会もかねて)
 日時 : 平成 1 6 年 2 月 6 日 (金)
 場所 : 片地小学校
 対象 : 県下の小・中学校
 目的 : 研究を公開することにより、次年度の研究へとつなげていくため
 H P 作成中につき、来年度には掲載

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
 【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 8 学級 1 9 ~ 2 4 学級
 2 5 学級以上
 【指導体制】 少人数指導 T . T による指導
 一部教科担任制 その他
 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無